ご近所さんで助け合う

My Sweet Home Town ―― 私たちのよりどころ

③「共有庭」を囲んで

5戸で共同管理　密度の濃い関係が「安心」

洋館風の5戸に囲まれた芝生の上を、子どもたちが自転車で走り回る。そばで母親たちが井戸端会議をしながら見守る。中央に植えられたカツラの木は8年分背が高くなり、年末にはイルミネーションで彩られた。

近江八幡市の南西にある住宅地、丸の内町の「プラザスタイル」と名付けられた一角。本来は宅地となる1区画が、周りの5戸が共同所有する庭となっている。事業主の村田興産（京都市南区）が宅地分譲開始から30年がたった2005年、「まちが循環していく起爆剤に」と、採算度外視で新たに分譲した。

「一緒に住んでるから仲良くしようと、自然にそうなった。おいっ子、めいっ子がたくさんいるみたい」。住民の一人、村田ひろみさん（52）が言う。5家族の世帯主は30～50代。幼児が4人、小学生が3人いる。大人も子どもも互いの家族を「～ちゃん」「～さん」と、名字ではなく名前で呼び合う仲だ。

庭を共有するという仕掛けがコミュニティーをはぐくんできた。街区は市の風景づくり条例・街並協定地区にも認定されているが、住民たちは除草や補修などのルールを意識するまでもなく、自主的に管理している。水やりは一週間交代で担い、花壇の花も順番に植える。

住戸間に塀がなく、庭は各戸のリビングから見通せる。行き来にも隔たりなく、園芸道具の貸し借りやいただき物のお裾分けはいつものこと。ホームパーティーも恒例となり、花の咲き誇る季節には見学者も来る。

以前、村田さんが自宅に一人でいるとき急に体が痛くなり、動けなくなった。救急車を呼ぶべきかためらったとき、隣家の長崎律子さん（39）が庭先を通るのが見えた。「助けて」。メールを打つと、すぐに駆けつけ、マイカーで病院に連れて行ってくれた。

田中葉子さん（41）は体調が悪いとき、幼稚園に通う娘を同じ園に通う長崎さんの家族に送ってもらった。仁志佐知子さん（42）は夕飯の支度中、大さじ1杯のかたくり粉を隣家の足立朋子さん（33）に借りたことがある。気兼ねなく助け合う関係ができている。

最近はスマートフォンの無料通信アプリLINE（ライン）を活用している。周りから「やりにくくないの」と聞かれることもあるが、女性たちは「ほどよい距離を持ちながら、うまくやってるかなあ」と互いに顔を見合わせる。

同じ町内の中古住宅に家族4人で住んでいた柿田佳代さん（42）は、プラザスタイルの完成時に見学した。だが、密度の濃い近所付き合いを想像し購入しなかった。それでも08年、2ブロック北側に、庭を囲む同様の街区配置の「ガーデンブロック」が売り出されると、庭の眺めの良さで即決し、引っ越した。

家は順次建てられ、現在は4戸が入居している。新たな転入者が入るたび、共有庭でバーベキューをする。日程を調整したり、分担して材料をそろえたり、面倒なことを経て互いの距離が縮まる気がしている。町内の草取りがあるとき、夫たちは声を掛け合って出かけて行く。

柿田さんは言う。「若いときは近所にいろいろ言われるのが嫌だなと思ったこともあった。でも、これから年をとっていく中で、お隣さん同士仲良くしておけば、何かあったとき安心だと思う」

（日下田貴政）

5戸が共有する庭は子どもたちの格好の遊び場にもなる。草木の手入れは住民たちが協力して担う（近江八幡市丸の内町）

ライトアップされたカツラの木。庭を明るく照らした

整然とした区画に戸建て住宅が並ぶ丸の内町

郊外住宅地の質　高める努力を

夢のマイホームの象徴とも言える一戸建て住宅が並ぶ郊外住宅地。高度成長期以降、民間事業者によって、京都市周辺や滋賀県の自治体でも爆発的に開発されてきたその多くが今、住民の高齢化と減少に直面し、どう維持するかが課題となっている。

郊外住宅地は一気に造成され、入居者の年齢層が一様になりがち。多くは「団塊の世代」で、70歳に手が届こうとしている。福祉ニーズが増大し、マイカーに依存した生活が維持できなくなる恐れもある。

「住民の世代をバランスよく混在させることが大事」。立命館大政策科学部の吉田友彦教授（都市計画）はいう。

著書「郊外の衰退と再生」で再生に必要な施策として、空き家台帳を整備する▽高齢者向け交通システム（コミュニティーバスなど）へ移行する▽近居する子世代を持つ居住者を把握する▽空き地の発生をポジティブに見る（駐車場への転用など）―などを挙げる。

若年層が居住地を選ぶ際に、実家の近くを選ぶ傾向があることにも着目する。「ゴーストタウン」と呼ばれないためにも雑草の維持管理など空き家対策の必要性も説く。

「総体として住宅地が縮小していくのは仕方がない。質を高める方向で変わっていくしかない」と提言する。

京都新聞社 The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.

© 京都新聞社　無断複製・転載を禁じます